

(2) 講 評

○委員長 それでは、委員の先生方と幾つか議論をいたしましたので、講評という形で報告をさせていただきたいと思います。

まず、この研究テーマにつきましては、私が最初に申し上げましたように、AI、IoT、ビッグデータという非常に重要な課題の中の1つのテーマでございますので、これは、逆に言うと、早く取りかかってやらなければならないテーマだと思いますから、ぜひ進めていただきたいと思います。これが1点です。

ただ、それを実施していく場合に、国土地理院というのは、過去からの非常に古い日本の国土の教師データを全部持っておられるわけですね。しかも、それが今、過去の研究テーマでオルソ化できるということになって、非常に大きなビッグデータをお持ちになっているわけです。そういう意味では、日本の国土全体の過去から現在に至る大きなビッグデータを持っておられるというのは国土地理院しかないわけでございます。今回のAIを使ったいろいろな方法について、それを先導するぐらいの意気込みでやっていただかないといけない。ただ、ブレークスルーという言葉が出ておりましたが、国土地理院は、どちらかというと、これまでは正確な地図を地道に重ね合わせてつくっていくということに重点があったわけですが、もちろんそれは重要ですが、AIという観点から見ると、それだけでは済まないということになると思いますので、そのあたりの国土地理院内での考え方のブレークスルーもやっていただきたいと思いますということと、早く進める必要があるのではないかと。

具体的な名前を挙げて申しわけないですが、TOYOTAとか、いろんな自動車会社がAIを使って、リアルタイムにダイナミックな地図をつくるというのは先行してどんどんやっています。これが1年後、2年後には成果が出てくる可能性がありますので、そうすると、国土地理院がやっているAIを使った研究成果というのは何なのだという事にもなりかねませんので、早く進める必要があるのではないかと。そういう意味では、JAXAさんとか、先ほども新しい光学衛星のお話もありましたけれども、新しい衛星情報なんかも積極的に取り入れた形で進めていくということが必要だと思います。

それと、今の件とちょっと重複しますが、これまでは国土地理院しかできないことをやってきたわけです。国土交通省国土地理院、国の特別な機関として地図づくりということをやってきたのですが、AIについては民間が先行して、先ほどの自動運転だとか、

いろんなものに取り組んでいます。正直言って、1～2年先が見えない状況だと思います。それに対して、ちょっと苦言に近いのですが、このテーマを2名体制でやっていって大丈夫なのでしょうか。それだけ早く取り組んで、いろいろな影響力を与えるだろうし、国土地理院が持っている過去のすばらしいビッグデータを生かすということで、国を先導していくぐらいの気概でやろうとすると、果たして2名体制でいいのでしょうかというのは、委員の先生方からの疑問も出ております。

逆に言うと、チャンスを生かすのであって、もうちょっと国土地理院として積極的に人員体制を確保して、極端な話、部署も新たに作るぐらいの気概でやっていく必要はないのでしょうかということと、これは5年の期間ですので、恐らく中間評価というのはあると思うのですが、5年だと多分3年ぐらいに中間報告があつて、最終年が最終報告という形かなと思ったのですが、先ほど委員の先生方から、それでは多分遅いであろうと。中間報告というのは1.5年とか2年とか、そういうところで、1～2年先が見えない状況のものに取り組んでいるときに、3年後まで中間報告を待っているというのでは遅過ぎて、1.5年とか2年とか、あるいはその次にまた3年とか、そういうことを考えたほうが、このテーマに関してはよろしいのではないだろうかというご意見でした。

要するに、これまでは国土地理院のみでクローズドしてやっていましたので、ある期間の中の中間年でいいのでしょうかけれども、先ほども言ったように、民間がどんどん先行して、いろんなところに取り組んでやっていっていますので、そういう状況を見ながら、中間報告を早目に——中間報告というのがいいかどうか、わかりませんけれども、とにかくこの分野は早く進んでいくということは目に見えていますので、従来の評価体制ではちょっと遅いのではないのでしょうかということでした。

それから、国土地理院のみで実施するものではない。AIというものがいろんなところで出ていますので、例えば国の機関だとか民間機関だとか、直近で言えば、国土交通省内でのAIを使ったいろんな分析が一体どのようにやられているのかというのが、きょう御説明になかったような気がしますので、そのあたりと密に連携をとってやっていく必要があるのではないかなという御意見がございました。

それと、国土地理院の過去のデータを有効に使うということにおいては、災害対策とかというものについて非常に効果をあらわすことも考えられますので、そういう意味では、個別の部門である災害とか、国土地理院が過去に持っていたものを生かせるようなことについても考えていく必要があるのではないかなという御意見がございました。

今回はちょっと厳しい意見が多かったのですが、先ほど発表者からもお話がありましたように、これまでの考え方とはちょっと違うものを使ってやりますので、そういう意味では、何が出てくるかわからない、よく見えないというところもあると思いますから、ほかの情報を十分に収集する、あるいは民間、国の機関にかかわらず、いろいろと連携をし、今AIがどうなっているのかということを常に確認しながら、早目の対応・対処をしていくということが必要であろうという御意見がございました。

結論としては、最初に申し上げましたように、今の先端の技術でございますので、これを積極的に進めることに全く異論はないのですけれども、最先端で見えないという言い方がいいのか、よくわからないのですが、そういうものであるがゆえに、早目に状況を見ながら、報告をしていただくなり、ほかとの連携をしていくということが必要であろうと。

もう1つ、重複しますが、国土地理院しか持っていないビッグデータがあります。ですから、これを使うということは、AIの今の地図関係の分類では日本をリードしていく、ひいてはAIをリードしていくぐらいの気持ちで取り組んでいただきたいというのが委員の先生方からの御意見でございました。

先ほどの評価のところで、私が先生方からいただいたことをまとめたのがこの感じですが、何か補足することがございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

大変厳しい意見が多かったように思いますが、ぜひ積極的に進めていただきたいということでございます。

以上でございます。